

<報告>

里山の保全と森林資源の連鎖を探る

～人が作る森・人をつくる森～

日 時：6月11日(日) 19:00~20:30

参加者：13名

場 所：オンライン (Zoom) CPD：1.33時間

講 演1「市民参加型の県有林保全活動の状況と和歌山の特徴あるキノコ類について」

講 師：岡田 和久 氏 (NPO法人 根来山げんきの森倶楽部 事務局長)

(1) 和歌山県立森林公園「根来山げんきの森」での市民による里山保全活動

活動地面積:195ha メンバー:230人。来園者に心地よく、生物多様性の高い里山空間を提供する活動をNPO所属のボランティアが実施。毎月第3日曜に里山整備・炭焼き・歩道補修・草刈り等から各自の好みのテーマに沿って行う、また不定期的に観察会(キノコ・粘菌・野鳥・夜の生き物・自然全般)等を実施。

少し時代を遡れば「里山」は、人の営みに必要な燃料(薪や木炭)、肥料(堆肥)の調達の間であった。人が関わることで落葉樹主体の明るい森林環境が維持され、植物・哺乳類・昆虫・野鳥等の多様な生き物による生態系が維持され、キノコ、山菜なども豊富であった。

人が関わることで森がげんきになる、森の中で気持ち良い汗を流すことで人がげんきになる。誰もが森を楽しめる、そんな環境を目指して、みんなで工夫しながら活動を行っている。森の中で自分のやることを見つけた人は熱心に活動を続けるようになる。



写真1 里山保全活動



写真2 アカヤマドリ



写真3 イヌセンボンタケ



写真4 タマゴタケ

(2) キノコの働きと魅力

腐朽菌は、植物を分解して森を育てる。リグニン、セルロース、ヘミセルロースを分解できる生物は限られており、キノコは優秀な分解者である。菌根菌は、植物と共生して森を育てる。菌根菌は土壌からリンを中心とした様々なミネラルや水を植物に供給する代わりに、植物が光合成で生産したデンプンを栄養として受け取っている。植物が生成する栄養の2割はキノコ(菌根菌)へ供給されるとの説もある。森林は、樹木と多様な菌根菌が共生することで維持されている。

(3) 里山とキノコの関係

里山の保全活動により森林の環境が変化することで、発生するキノコの種類が移り変わっていく事が感じられる。和歌山県の里山は、放置すれば照葉樹林と呼ばれる常緑樹主体の暗い森に遷移していくが、木々を整理し、薪を作り炭を焼いて里山を保全することで、様々なキノコとの出会いが蘇っている。

(文責：宇田 毅 監修：岡田 和久)